ＴＴＣ提案山行実施記録表　2010年7月25日　報告者：佐藤 清(1/4)

山行名	**北ア　槍ヶ岳と穂高岳（大キレット越え縦走）**　[3,180m/3,190m/長野県/岐阜県]
実施月日	2010年7月17日（土）～20日（火）　３泊４日（小屋泊）　マイカー利用
天候／参加人員	天候　１日目：晴れ/雨のち夕方から晴れ　２日目：晴れ　３日目：晴れ　４日目：晴れ レベル：★★★★　参加人員（申込:３、実行:３人）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	ＣＬ/計画:、　ＳＬ:、　会計:、　救護:、　写真：　氏　名　削　除
参加メンバ	氏　名　削　除
費用 一人当たり ¥41,000	約123,000 内訳　車両使用料¥4,800（¥10*480km）、ガソリン代¥7,800（¥130*480km/8km）、ドライバー謝礼¥10,000（¥5,000*2 日）、沢渡 駐車料金¥2,000、高速道路代（相模湖 IC→松本 IC）¥1,000、高速道路代（松本 IC→相模湖 IC）¥2,750、タクシー代（上高地→沢渡）¥2,400、タクシー代（沢渡→上高地）¥3,600、槍沢ロッジ 宿泊料¥27,000（1 泊 2 食）、南岳山荘 宿泊料¥30,000（1 泊 2 食+弁当）、穂高岳山荘 宿泊料¥30,000（1 泊 2 食+弁当）、入湯代¥1,500（¥500*3 名）、¥カンパ金 150

実行コースタイム記録

		行動時間	歩行時間	休憩時間	備　考
1日目	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	－	４：５５	－	12:10 頃に遠雷があり雨が降ってきた。
	計画	５：４０	５：１０	０：３０	
	実行	４：５１	４：１６	０：３５	
2日目	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	－	８：１０	－	朝食を持参した食料や小屋弁当で早めに食べて 4 時 45 分にロッヂを出発した。雷鳥発見
	計画	１０：２５	８：４０	１：４５	
	実行	１０：５８	８：２４	２：３４	
3日目	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	－	６：４５	－	記録する余裕なく休憩時間未記入部分がありますので、記録した休憩時間に+1：00 した。
	計画	６：５０	５：４５	１：０５	
	実行	９：０３	６：５９	２：０４	
4日目	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	－	７：２５	－	吊尾根に意外と手間取った。岳沢ヒュッテは岳沢小屋として 7 月 23 日に再びオープンする。
	計画	９：４０	７：４５	１：５５	
	実行	１０：１８	８：２１	１：５７	

◆7/17（土）

4:00　5:13　6:05～6:12　7:07　8:02～8:34　8:57
厚木市内各所＝＝＝相模湖ＩＣ＝＝＝双葉ＳＡ＝＝＝松本ＩＣ＝＝＝沢渡駐車場＝＝＝タクシー＝＝＝バスターミナル
1:13　0:52　ﾄｲﾚ休　0:55　0:55　0:23

9:05　9:47　10:33～11:00　11:52～12:00　13:48
―――河童橋―――明神―――徳沢―――横尾―――槍沢ロッヂ
0:08　0:42　0:46　0:52　1:48

◆7/18（日）

4:45　5:53～6:03　6:55　7:18～7:32　8:50～9:00　9:53～10:24　10:43～11:05　11:27～11:50
槍沢ロッヂ―――水俣分岐―――天狗原分岐―――2,490m 付近―――2,985 付近―――槍ヶ岳山荘―――槍ヶ岳―――槍ヶ岳山荘
1:08　0:52　0:23　1:18　0:53　0:19　0:22

12:32　13:18～13:30　13:50～14:10　14:54　15:18～15:30　15:43
―――大喰岳―――中岳―――水場―――天狗分岐―――南岳―――南岳小屋
0:42　0:46　0:20　0:44　0:24　0:13

◆7/19（月）

5:30　7:46～7;55　9:45～10:30　14:05～14:15　14:33
南岳小屋―――Ａ沢のコル―――北穂高―――涸沢岳―――穂高岳山荘
2:16　1:50　3:35　0:18

◆7/20（火）

5:35　6:15～6:35　8:28～43　9:13～9:30　10:04～10:14　10:54～11:04　12:03～12:08
穂高岳山荘―――奥穂高―――紀美子平―――前穂高―――紀美子平―――2,710m 付近―――2,360m 付近―――
0:40　1:53　0:30　0:34　0:40　0:59　0:23

12:31～13:05　14:01～14:10　14:20～14:25　15:03　15:15～15:45　15:53
岳沢ヒュッテ―――1,850m 付近―――風穴―――岳沢登山口―――河童橋―――バスターミナル＝＝＝タクシー
0:56　0:10　0:38　0:12　0:08

16:18～16:25　16:26～17:40　18:25　19:17～19:22　20:18　21:26
＝＝＝沢渡駐車場＝＝＝しもまき（お風呂と食事）＝＝＝松本ＩＣ＝＝＝双葉ＳＡ＝＝＝相模湖ＩＣ＝＝＝厚木市内各所
0:25　0:01　0:45　0:52　0:56　1:08

共同装備
なるべく各自の荷物を少なくするため以下の備品を共同装備として分担した。
ＳＫ：コッヘル、バーナー、ガスボンベ（250）g×1 個
ＳＴ：ツエルト、小型やかん
ＫＴ：カメラ、救護袋

今回の槍ヶ岳から穂高岳の縦走は、幸運に恵まれて計画書どおりに実行できたと思う。 (2/4)

（幸運）

1. 天候が山行中は晴れて安定していた。
2. 山行コース上には残雪があったもののアイゼンを付けるまでにはいたらなかった。

（反省）

1. 南岳小屋に連絡をして山行コース上には残雪がないことを確認してアイゼンを持参しなかった。
2. 3,000m級の 7 月の山行は、念のためアイゼンを持参するべきだった。（できれば６本爪）ＫＴさんは４本爪アイゼンを持参していた。
3. 重要な情報（今回は残雪）は１ヶ所でなく複数に確認するべきだった。

（留意）

1. 計画書より朝の出発時間を早くしたので行動にゆとりができた。（２日目、３日目）
2. 小屋にはテレホンカードが使える公衆電話がある。

（山行前）

今回の山行募集のときに３名の応募があり、応募者のＳＴさんが３名の山行者のことを三銃士と言ったので、それを家内に伝えたら三馬鹿トリオじゃないとバッサリです。

山行１週間前までは予報の天気が雨模様で、今回の山行は実行できないのではないかと懸念していた。しかし、何と運がいいことだろうか山行３日前から山行日以降の予報が晴れマークに変わった。

今回の山行で心配だったのは、天候と残雪でした。山行日１週間前から１日に５回は松本地区の天気予報を見ていた。残雪情報は南岳小屋に山行コースを伝えて確認をしたら「ありませんよ。」と言われ、これでアイゼンを持参しない分荷物が軽くなるのでホッとした。

（１日目）

４時に自宅をマイカーで出発して、ＳＴさんとＫＴさんをピックアップ一路沢渡に向かった。朝も早いことから渋滞もなく、ＳＴさんに運転をしてもらい双葉ＳＡまでノンストップで行き、そこで私に運転を変わった。順調に走行して予定より１時間前に沢渡駐車場に着いた。駐車場にアルピコのタクシーが客待ちをしており、運転手さんから「バス代と同じで上高地まで行くよ。」と言ってきたので、「あと２人集めてくださいよ。」と言ったらカップルを探してきて５名でタクシーに乗車して上高地に向かった。これで、上高地まで一人当たり 800 円（バス代@1,200 円）の運賃ですむ。バスターミナルまでは概ね 20 分で着いた。運転手さんから帰りも連絡を貰えればバス代と同じ料金（一人当たり 1,200 円）でいいよと名刺大のカードを渡された。

さすがの河童橋も朝が早いので観光客はまばらであった。ここで一息ついて出発をして明神で休まず徳澤まで行き中休止を取った。ＫＴさんが「徳澤園はソフトクリームが有名だよ。」と言うのでそれじゃ食べようかと三人とも注文をした。その従業員に「登山届はどこで出せばいいのですか。」と聞いたら「こちらで受け取りますよ。」と言うので渡したら「アイゼンは持っていますよね。奥穂から前穂の吊尾根に雪があるかもしれないよ。」と言われて不安になった。次に横尾で一本立てていたら、山野草を取る者を監視している方から「アイゼンは持っていますね。」と言われ益々不安になった。ないものは仕方ない。小屋か山仲間に聞くことにしようということになり出発した。槍沢ロッヂには予定より２時間以上早く着いた。早速、小屋の方に山行コースを伝えて残雪状況を聞いたら、「そこにあるパソコンで岳沢ヒュッテのＨＰに載っていると思いますので確認をしてください。」というので確認をしたら残雪情報は載っていない。仕方がないので南岳小屋で情報を得ることにした。ヒュッテのお風呂は３時から夕食は５時３０分で、ザックの整理をして風呂に入って、余った時間はＫＴさんとＳＴさんが持参した日本酒を３人で飲み、夕食を摂って６時３０分には就寝をした。

（２日目）

早朝、３時半ごろ起きてＫＴさんは手作りおにぎり、ＳＴさんはコンビニおにぎり私はヒュッテの弁当を食べて４時３０分に出発をした。

水俣分岐あたりから残雪が現れアイゼンを持ってくるべきだったと反省させられる。天狗分岐から氷河公園方面を見ると残雪がたっぷりあり、最後まで山行を実行できるのか不安が増した。急坂を１歩１歩登り「足が上がらないよ。」といったら「後ろから見ていても分かるよ。」とＫＴさん。やっとの思いで槍ヶ岳山荘に着いた。

槍ヶ岳山荘は、かなりの人で賑っている。ＫＴさんが山荘で水を買ったが 500ml/100 円であった。一服してから山頂を目指す。人気の山だけあって登り下りともに一方通行である。

難なく山頂に着いた。槍の頂上の祠の前で記念写真を撮ることにしたが、順番待ちである。富士山や笠ヶ岳等々３６０度が見えパノラマである。「やはり、山は天気次第だね。」とＳＴさん。名残惜しいが先があるので槍の穂先を降り、大喰岳に向かった。途中で単独行の方に残雪情報を聞いたら、今日、西穂から来たけど若干残雪はあるもののアイゼンはいらないとのことで一同ホッとした。大喰岳には直ぐに着き、山頂で写真だけ撮り出発をした。大喰岳を下って直ぐに雷鳥が姿を現した。ＫＴさんはこのモデルに向かってシャッターを押している。ＫＴさんはデジカメを持ったまま雷鳥が逃げる

方向に向かって追いかけていたところ、足元が疎かになったと思うが這松の中に倒れ込んで一回転して
土の上に倒れた。石で打ったらしく額の直ぐ上が３ｃｍほど切れて血が出ている。傷は深くなく軽傷ですんだ。
中岳で小休憩をして写真を撮り、今回の山行の3,000m峰８座全部で写真を撮ろうと３人で話していた。
中岳から１５分ぐらい歩くと左にまがり急坂を下ることになる。この左折するところは真直ぐ行く方にも踏み跡があり少々分かりづらい。下りきったところに雪解け水が流れている水場がある。ここで、水筒へ満タンに水を入れ、コップで水を飲んでから出発をした。ここから南岳には休まず歩き１時間３０ほどで着いた。ここでもお決まりの写真を撮った。
ここから下った肩のところに南岳小屋がある。小屋には４時前に着いた。夕食、朝食ともに５時からである。ここでも残雪情報を登山客に確認をしたら岳沢ヒュッテから南岳の間はアイゼンを付けなくても大丈夫と聞き安心をした。明日の朝、直ぐに出発できるようにザックの整理をしてからビールで乾杯をし、私が持参した焼酎を飲んだ。
夕食を摂り８時ごろに就寝をした。
（３日目）
朝、４時頃に起きたが、もう出発する人がいた。予定どおり５時に食事を摂り５時３０分に出発をした。
南岳小屋から岩場を一気に下り垂直なハシゴを降り、登ったところが、怖いと想像していた白ペンキでＨピークと書かれた長谷川ピークも難なくクリアした。その先にはナイフリッジの岩が望める。ここもなぜか異様に太いクサリがあって大丈夫だ。それにしても見上げた北穂の北壁の迫力たるや凄いと思っていたらまもなくＡ沢のコルに到着した。
これから飛騨泣きの難所が始まるがどこが飛騨泣きか分からなかった。北穂の小屋が見えたが中々近づかない。やっと北穂高岳に着きホッとしたひと時を迎えて大休止をした。
ＳＴさんの本では北穂から穂高岳山荘までの間がレベル９（最高難易度レベル１０）で、今回の山行コースでは最も難易度が高く気を引き締めて歩かなければならない。
　鎖、梯子の連続で最低のコルにもう少しというところで、ＫＴさんが一抱えもある石に乗りその石が動き、石の下に足が挟まり動けなくなってしまった。ＳＴさんが石の上部から引き上げ私が下部から押したが、びくともしなかった。しかし、これも運が良かった。最低のコルで休憩している若者４人組の内３名が救助にきて石を簡単に動かしＫＴさんの足を石から引き離してくれた。ＳＴさんは、「足の骨は大丈夫ですか。」ＫＴさん足を動かして見せ「大丈夫だ。」と一言。
ここから、涸沢岳に向かい鎖、梯子の連続で、特に岩を巻くように鎖を張ってあるところでは、どうしても下を見てしまい、その高度感で少々ビビってしまった。やっと立った涸沢岳山頂から真下に穂高岳山荘が見えると、ようやく緊張感からか開放される。穂高岳山荘に１４時３０分ぐらいに着いたが、もう奥穂高岳に行く気力も体力も残っていなかった。この山小屋は今まで泊った中では、外観、内装、設備（トイレが水洗等々）ともに一番良いのではないかと思う。ここでもビールで乾杯をして、後から日本酒を飲み５時から夕食を食べて８時ごろには就寝をした。
（４日目）
ザックの整理を昨日していて良かった、朝寝坊をして４時３５分にＳＴさんに起こされた。今日の行程は、奥穂に登ってから吊尾根経由で重太郎新道から上高地へ下山する。ＳＴさんの本によれば紀美子平から岳沢ヒュッテの間はレベル８とのこと。出発するときに山荘から岳沢ヒュッテまでは気を緩めずに行こうと話し合った。穂高岳山荘から直ぐに奥穂高岳への登りになる。いきなり梯子がでてくる。その後は三点確保で約２００ｍを登っていくと４０分で山頂に到達した。目の前にジャンダルムがかなりの迫力で見えた。ジャンダルムへの稜線はかなり険しいが何か行けそうな感じもした。奥穂で７座目の記念写真を撮ってから吊尾根に入る。吊尾根という響きと昨日に知り合った山ヤが簡単に行けるようなことを言っていたので、紀美子平までは楽に行けると先入観があった。しかし、これが間違いで三点確保での登り、鎖やガレている所もあり慎重に行ったので紀美子平まで２時間ほどかかってしまった。楽だと思う気持ちがあったので、想像以上に厳しく精神的に参った。猫の額ほどの紀美子平で一服して前穂の登りに取り付く、ここでも三点確保をしながらやっとの思いで前穂高岳山頂に着いた。これで、3,000m峰８座全て登頂をした。山頂に２０分ほどいて下山したが、登りより下りの方が難しかった。紀美子平に着いて一息入れて出発をした。いきなりの鎖である。しかも、下の石がつるつるしていて天気が晴れていて良かった。下が濡れていたら難易度がかなり増すであろうと思う。
岳沢ヒュッテまではガレていて梯子あり鎖ありで慎重に下る。岳沢ヒュッテに着いたら、これで後は厳しい山道はないと思うと何か肩の力が抜けた。
ヒュッテから１時間ぐらい歩くと何やら左のほうから涼しい風が吹いてきた。ＫＴさんが「これが有名な風穴だよ。天然クーラーだね。」というので先ほど休憩したが、ここでも小休止をした。風穴から４０分ぐらいで登山口に出て、そこから１０分ほどで河童橋につき、３０分ほど休憩をしてからタクシーを呼んで沢渡駐車場に向かった。お風呂はタクシーの運転手に聞いたら食堂兼日帰り温泉の『しもまき』がいいですよ。というので、沢渡駐車場の目の前の『しもまき』でお風呂に入り、食事をしてから一路厚木に向かって出発をした。渋滞もなく計画より１時間早く自宅に帰ることができた。
（雑談その１）
今田英雄さん（小屋主）と思われる方から、なぜ紀美子平というのか伺った。穂高岳山荘を開いた今田重太郎さん（小屋主の父親）が娘の紀美子（英雄さんの妹だが２３歳の若さで亡くなった。）を紐に括り付け遊ばせながら一人で重太郎新道作りを行った。紀美子平の名前を定着させるため正確な地図を提供することにし、センチメートル単位の地図を作った。

（雑談その２）

ＳＴさんが「これで、山ヤの端くれと呼んでもらえるかな～。」私「充分ですよ。端くれでなく、山ヤですよ。」

（ＳＴさん寸評）
昨年度、計画者以外は誰も手を上げなかったために流れてしまった槍・穂縦走だが、今年度は何としも実現させたく積極的に申し込んだのはよいが、日程が近づくにつれ、だんだん不安になってきた。例年、夏山ビッグ山行に備えて自分なりにトレーニングを積むが、今年度はこの不安を解消するために、これまで以上にトレーニングに励んだつもりである。
憧れの名山 ルート&難所ガイド』なるガイドブックを購入して内容を確認すればするほど不安が募ってくる。ＣＬは、「天候が崩れたりしたら潔く撤退しよう…！」と頼もしいことを言ってくれるが、私が心配しているのは例えば、前日に雨が降り、当日は岩場は濡れている(即ち滑りやすい) し風が吹いているが何とかいけそう…というような中途半端な状態が厭なのである。一端踏み出した以上、基本的に最後まで行きたいのは誰でも同じである。明らかにＮＧの状態での撤退判断に迷いはないが、中途半端な状態での判断が難しいと考える。幸いにも今回は、初日の槍沢ロッジまでの間で小雨に遭遇したものの、2 日目以降の本番ではほぼ完璧な天候に恵まれ、心配事が杞憂に終わったことは本当に幸いであった。今回の槍・穂縦走で 3000 m峰８座を踏破することができれば大きな自信になるであろうと、決して無謀ではないと思うが少し背伸びをしてチャレンジしたが、完登後のこの充実感は筆舌に尽くし難い心境である。同行のＳＫさん、ＫＴさんに心より感謝申し上げたい。

以上